

活動予定①

サステナフォーラム 2009

- 地球変動と発展 -



今年度もジョン・ハイ先生をお迎えしてサステナフォーラムを開催します。

日時：10月26日(月) 14:00~16:00
受付 13:30-

場所：茨城大学水戸キャンパス
環境リサーチラボラトリー棟
1階 遠隔講義室

基調講演

ジョン・エドワード・ハイ
(茨城大学 I CAS 特任教授)

「気候変動：
驚異に対する太平洋地域の取組み」

討論

ジョン・エドワード・ハイ
三輪徳子 (茨城大学人文学部准教授)

総合討論

*講演と討論は英語で行われますが、日本語の解説が入ります。
皆様のサステナ・フォーラムへの参加をお待ちしております。

活動報告 浸食とその適応に関する国際ワークショップ

International Workshop on Erosion and its Adaptation 2009



平成21年10月20日・21日、浸食とその適応に関する国際ワークショップ(IWEA2009)が、茨城大学水戸キャンパス理学部インタビュースタジオに於いて開催されました。ベトナムからの5名を含む52名の参加をいただき、ハノイ科学大学、ピンディン県科学技術部、ベトナム水資源研究所、京都大学、茨城大学から海岸浸食とその適応策についての9講演と、今後についての発展的なパネルディスカッション、さらに常陸那珂港へのフィールドトリップが実施され、実り多い2日間を成功裏に終えることができました。

活動予定②

ICSS-Asia

International Conference on Sustainability Science in Asia

開催日 2009年11月23日、24日
場所 AIT(アジア工科大学、タイ)
主催 IR3S、東京大学、アジア工科大学
共催 国際連合大学
参加 ICASからは3名が参加を予定しています。

ICAS/IR3S Calendar

| | | | |
|----|--|-----|--|
| 4月 | <p>新年度スタート</p> <p>4/20~ ICAS 研究セミナー・開始 原則毎週月曜日 15:00~ (水戸 ICAS 本部)</p> <p>4/24 茨城大学バイオ燃料社会プロジェクト・ワークショップ(水戸三の丸庁舎)</p> | 10月 | <p>10/14 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部)</p> <p>10/10 ICAS/TIEPh 国際セミナー(東洋大学)</p> <p>10/17 茨城大学・茨城県・茨城産業会議共催シンポジウム(水戸三の丸ホテル)</p> <p>10/20-21 第1部門海岸浸食と適応策の国際ワークショップ(茨城大学水戸キャンパス理学部インタビュースタジオ)</p> <p>10/26 ICAS サステナフォーラム(水戸遠隔講義室)</p> |
| 5月 | <p>5/1,25 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部)</p> <p>5/19-21 IR3S/チンダルセンター 国際シンポジウム(英・イーストアングリア大学)</p> <p>5/25 IR3S/豪大使館 日豪国際高等教育シンポジウム(オーストラリア大使館)</p> <p>5/30 茨城大学地域貢献シンポジウム(水戸常陽藝文センター)</p> | 11月 | <p>11/7-8 第5回国際学生会議(ICSCI5)(茨城大学インフォメーションセンター)</p> <p>11/16-17 S4国際シンポジウム(東京大学山上会館)</p> <p>11/23-24 ICSS-Asia(アジア工科大学・タイ)</p> <p>11/28 W-Bridge 一周年記念シンポジウム(早稲田大学)</p> |
| 6月 | <p>6/8,15,22,29 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部)</p> <p>6/10-12 IR3S/国際連合大学 教育シンポジウム(国連大学)</p> <p>6/13 第1回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸キャンパス)</p> <p>6/20 第2回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸キャンパス)</p> | 12月 | <p>12/4 第1部門ワークショップ(水戸)</p> <p>12/11 国際シンポジウム:農業イノベーションによるバイオ燃料社会の構築(水戸三の丸 県立図書館視聴覚ホール)</p> <p>12/19 IR3S 共通科目「サステナビリティ学最前線」</p> |
| 7月 | <p>7/1 ICSS-Asia 国際運営委員会第一回会合(タイ・アジア工科大学)</p> <p>7/4 第3回集中講義「サステナビリティ学入門」(水戸)</p> <p>7/6 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部)</p> <p>7/28-29 IR3S 教育担当者会議</p> | 1月 | <p>1/9 IR3S 共通科目「サステナビリティ学最前線」</p> <p>1/23 IR3S 共通科目「サステナビリティ学最前線」</p> |
| 8月 | <p>8/3,17 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部)</p> <p>8/7 ICAS 第二部門研究会議</p> <p>8/20 ICAS 第三部門研究会議</p> <p>8/22-30 国際実践教育演習(タイ)</p> | 2月 | IR3Sシンポジウム |
| 9月 | <p>9/1,25 ICAS 研究セミナー(水戸 ICAS 本部)</p> <p>9/4 ICAS 年報 2009 発行</p> <p>9/8 ICAS 総括サステナフォーラム</p> <p>9/11-13 国内実践教育演習(大洗・酒沼)</p> | 3月 | 第3回 ICAS 学生サステナ・フォーラム |

*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

未来の科学者を育てています！

～ひたちなか市理科支援教育プロジェクト～



ひたちなか市の小学校 20 校のうち 7 校の理科授業の支援プロジェクトに参加しています。

昨年度、ICAS の齋藤研究員が初めて一校実施し、今年度、その成果により、ひたちなか市教育委員会の要望で、工学部の安原先生がコーディネートをを行い工学部都市システム工学科地盤工学研究室の B4・M1 が中心になって、小学 5,6 年生の理科実験授業を支援しています。このプロジェクトは小学校の理科のレベルアップと、実践教育を主眼に進められています。

特に、ICAS 研究員の齋藤は、地球温暖化の適応策の一つである、将来の環境人材の育成を目的に、ひたちなか市外の小学校で、環境教育を理科実験授業への組み込み、実践しています。

CO₂測定器を利用した「水溶液の性質」についての実験など斬新な取り組みを行っています。

こういった取り組みが、将来の環境に対する適応のスキルをもったリーダーになるべき人材を生み出していくものと思います。また、学生が学校給食を生徒と一緒に食べることで、子供目線で、物事を理解することを生徒と一緒に考えています。学生の中には、環境というキーワードでひたちなか市の小学校全体を、考えてみて欲しいと教育委員会から請われる人材も出てきました。喜ばしいことと思っています。

ICAS 研究員 齋藤修

メンバー紹介 朝倉希美代 (あさくらきみよ)

ICAS 阿見キャンパス事務スタッフ

ICAS 阿見キャンパスで事務を担当している朝倉希美代です。

阿見キャンパスでは、おもに第 2 部門での『気候変動適応型の農業開発』をテーマに各分野で研究しています。

そこで、農学部をちょっとご紹介します。17.9ha の水田・畑地には、梨・柿等季節の果物・野菜・米、

ハウスではトマト・いちご・花を栽培しています。

牛・馬・山羊の動物達も元気に暮らしています。

気候変動の影響は、地球の全てに及ぼしています。

地球の未来を守りませんか！！

興味のある方はどうぞ。お待ちしております。



一面のブロッコリー畑にて朝倉です！



『ブロッコリー』あと少しで出荷されます



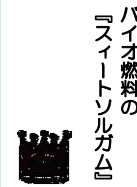
温室内で無農薬のトマト「マロニステディ」野菜ですが実物のように甘いです



山羊もいます



たわねに実った『柿』



バイオ燃料の原料



バイオ燃料の原料です。実物に触れてみませんか？実物を見に来てください！

◆ みんなのエコソフィー -2- ◆

宇宙物理学者A氏の場合

エコソフィーとは？

あなたや私の行動は地球や環境に直接または間接に影響を与えます。エコソフィーとはその行動のよりどころとなる基本の世界観です。



我々の棲む銀河系のさらに外にある多くの銀河を研究している宇宙物理学者 A 氏。A 氏の日常的な距離の単位はメガパーセク（1 メガパーセクは 3 億 2 6 0 0 万光年、1 光年は約 9 兆キロメートル）、そして宇宙の創生に思いを馳せるときの長さ単位はプランク長と呼ばれる 1 億分の 1 億分の 1 億分のさらに 1 億分の 1 ミリである。時間については宇宙誕生の 1 3 7 億光年前を物差しにして、年齢数十万年の「生まれたばかりの」星、宇宙開闢から「わずか」8 億年後、などというのが隔らない通常感覚である。地球や生命の存続といえは 5 0 億年後に太陽が地球軌道まで膨れ上がる時のことである A 氏にとって、1 0 0 0 年や 1 0 0 0 年、1 万年後というわずかな、「今」と変わらない時間での気温上昇に代表される地球環境の変化は誠にゆゆしき事態なのである。さて皆さんの専門分野での地球変動に対する感覚はどのようなものでしょうか。

◆ 本の紹介 ◆

地球環境「危機」報告 石弘之 2008 年 有斐閣

世界 1 3 0 カ国を訪ねた著者の最新の報告と警鐘。「時間はあまり残されていない。解決策は地道な節制の努力。」

地球のなおし方 ドネラ・メドウズ他 2005 年ダイヤモンド社

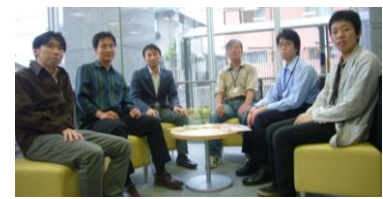
10 のシナリオと 1 0 0 年後までの予測計算。崩壊に至らず持続可能となるシナリオは少ない。

Rural Planning and Development in Canada

David Douglas 2010 Nelson Education カナダにおける農村計画と開発に関する最新の本です。1 2 月に茨城大学 I C A S 農学部招聘予定のビル・レイマー先生お勧めの一冊です。



ICAS on MEDIA



ICAS 専任メンバー

☀ 三者連携後援会が茨城新聞に掲載 ☀

1 0 月 1 7 日に開催された茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携の講演会の様子が、翌日の茨城新聞に掲載されました。

☀ 『サステナ』第 13 号発刊 ☀

茨城大学が編集責任を担当した IR3S 機関誌『サステナ』第 13 号が 10 月 20 日発行されました。I C A S 事務局 029-228-8787 までご一報くださればお届けいたします。



Editor's Note



茨城大学水戸キャンパスでも紅葉が始まりました。彼岸花、金木犀の香り、熟した柿の実と、今年も秋が深まっています。記事についてのお問い合わせやご要望などお寄せ下さい。MG